

## グローイング・アップ・ワイルド資格認定講習会

実施日：2015年9月6日（日） 会場：ネイパル深川

当日欠席者も出て、少人数ではありましたがスキルアップのために来た方ばかりで内容の濃い資格認定講習になりました。現地担当の多々見さんに準備全体を見ていただきながら自己紹介からスタート。参加者から現在の活動や今後の要望をお聞きしてから、体験活動を実施。屋外での活動や、参加者のお話を踏まえた体験内容に、皆さん真剣に取り組んでいました。昼食後は実際の体験も交えながらの実践も行いました。日頃の自分の活動にすぐにでも役立ちそうな実践だったため、参加者も「明日使えそうです」「来月のプログラムに…」なんて話が飛び交う学びの多い時間でした。北海道キャンプ協会での取り組みやこのような研修なども参加してほしいこと、もちろん資格も取得していただければとお話をして終わりました。



### 参加者の声

- 実際に使用するフィールドにいる生き物をメインに活動していただき、今後使えるのがすごくうれしいです。その他にもたくさんのプログラムをしていただけたので楽しむことができました。どんどん使っていきたいと思います。
- すぐに使えるものばかりなので、もっと多くの人に知ってほしい。参加してほしいと思います。今後広報などお手伝いできればと思います。
- 近くでの研修がなかなかないので、すごくありがたかったです。

## 青森県キャンプ協会10周年事業参加報告

「青森県キャンプ協会設立10周年おめでとうございます！」  
今年設立10周年を迎えた青森県キャンプ協会の記念式典（弘前市）に、当会からは下川原理事、山田理事、上木の3名で北海道の定番お土産を携えて参加してきました。  
記念講演は、日本キャンプ協会の星野会長から「キャンプ協会の歴史とこれからの野外活動」について、来年設立50周年を迎える日本キャンプ協会のあゆみの年表を基にふりかえり、キャンプの移り変わりや現在の多様化等のお話しをいただきました。  
記念式は、太田会長の主催者挨拶、星野会長の祝辞、設立からの10年のふりかえり等が行われ、祝賀会では津軽三味線の演奏からスタートして乾杯！そして祝宴と続いていき、たくさんの「青森」を紹介していただき、知り、触れることもできました。  
また、他県の方とは1年ぶりの再会し、3年前の北海道20周年の思い出話も多く出ており、みなさんの印象に残る式典となっていたことを嬉しく思います。  
お礼のお土産でいただいたリンゴをそれぞれ抱えながら帰路に就きました。

報告者：上木祐弥（NPO 法人冒険クラブ）



# 北海道キャンプ協会 かわら版

2015.12.1

北海道キャンプ協会 発行

## 冬の活動を楽しむために

北海道キャンプ協会副会長 秋葉 聡志

北海道に暮らして35年。身も心もすっかり寒冷地仕様になりましたが、東京生まれ東京育ちの私にとって、かつて「雪」は特別なものでした。子どもの頃、東京で雪が降るのは、年に1回あるかないかのこと。増してや積もるほど降るとなると、子どもにとっては大喜びの大イベントとなりました。それほどに、雪のない地方の人々にとって、北海道の冬が大きな魅力になっていることは間違いありません。

半年近くが雪と氷に閉ざされるこの北海道にあって、私たちが取り組む野外活動を魅力あるものにできるかどうかは、この冬とどうつきあっていくかにかかっています。特に冬の野外活動に取り組む際に考慮しなければならないことの第一は、まずは冬が長いということ。それはとりもなおさず冬の活動（雪上活動）の機会が豊富だということですが、裏を返せば冬の活動の充実が何よりも課題であるということになります。

次に、環境の変化が著しいということが挙げられます。寒冷な気候により、積雪や結氷という自然現象で、利用するフィールドが夏とは大きく変化します。それは、プログラムの変化やリーダーシップのあり方の変化をもたらします。

では、具体的にどのような配慮が必要なのでしょうか。

第一に、下見の重要性です。一晩の積雪でフィールドの状態は激変します。必要に応じ、活動日直近の下見により、活動場所の把握をし、プログラムの変更や場所そのものの変更を検討します。複数回の下見が必要になることも見越してスケジュールを調整することが必要です。

第二に、暖をとれる場所の確保です。特に子どもを対象とした活動では、冷えた身体や手指を温めることのできる施設の確保が必須です。確保できない場合、自前でテントや暖房用コンロなどを準備します。

第三に、参加者個人の寒さ対策です。活動内容に応じ、服装、用具、携行品、足回りなど、必要な情報を参加者に周知し、装備を整えてもらうのと同時に、個人装備とは別に共同装備としてバックアップに必要な備品を準備します。特に子どもたちの活動で訴えが多いのは、「手が冷たい」、「足が冷たい」で、そうなる活動どころではなくなり、凍傷のリスクも高まります。

第四に、積雪の状態によっては、移動に時間がかかったり、滑って転ぶなど、移動時の安全確保に配慮が必要です。指導者が先に進み、移動ルートを選択・確保をすることが必要です。

最後に、これらを踏まえ、夏期の活動よりも余裕を持ったスケジュールリングが必要になります。

半年間雪に閉ざされることで北海道の大自然は守られているとも言えますし、自然の力を思い知り、人間は謙虚さを教えられます。自然の恵みに感謝し、安全で魅力のある冬の活動にしたいものです。

## 北海道キャンプ協会

〒047-0155 小樽市望洋台 2-14-1 望洋ガ イルツ (特)自然教育促進会内 担当：安原、岩崎  
お問合わせ TEL 0134(52)3240 FAX 0134(51)5667  
E-mail office@hokkaidocamp.com  
URL <http://www.hokkaidocamp.com/index>

# 啓発活動・会員交流担当より

## 事業報告

### 救急員の資格を取ろう

実施日：2015年6月27日（土）、28日（日） 会場：おたる自然の村

工藤副会長のあいさつのあとに、赤十字救急法基礎講習がスタートしました。最後に検定もあるということで学科を学び、実技の心肺蘇生やAEDなど学びました。

野外で活動するキャンプ協会の講習ということもあってか、事例や実際の対処の方法などについてたくさんの意見が飛び交っているのが印象的でした。その後、赤十字救急法基礎講習を無事にクリアし、いよいよ赤十字救急法救急員養成講習がスタートです。もちろん検定もありハードなスケジュールでしたが、皆さん集中して技術と知識を身につけていきました。

無事にみなさん認定を受け、その後みなさんでキャンプ協会の茶話会に。資格取得していない方へのキャンプ協会の説明、現状の報告、今後の動きと事業の宣伝、どんなことをしていきたいかなど話しました。そんな中でBUCはもちろんですが、一般向けへの宣伝ができるような企画も行い、もっと知名度をあげていけるといいですね。との声も上がっていました。

日程的にはハードなスケジュールでしたが赤十字救急法基礎講習と赤十字救急法救急員養成講習を途切れることなく、一度に学べたことは救急法の全体の流れが経験できてすごくいい流れだったように思います。

日期的にはハードなスケジュールでしたが赤十字救急法基礎講習と赤十字救急法救急員養成講習を途切れることなく、一度に学べたことは救急法の全体の流れが経験できてすごくいい流れだったように思います。



### 参加者の声

〇一つ一つの内容を実践の場の話も踏まえて詳しく学ぶことが出来る点ですごく良かったと思います。実技も何度も練習しながらフィードバックを受け、改善点も教えていただいたのでためになった。各章ごとに実技や演習があるとより、学科で学んだことが分かりやすく実践に生かせるのかなと思いました。キャンプインストラクターの講習について教えていただいて年に数回そのような機会があるといいなと感じました。二日間は結構大変だったけど濃くてよかったです。

〇今回初めて参加させていただきました。工作上、救急法を用いる事がまれに起きたりするのですが自分が中心となって動くこともなく、知識としても持っていなかったもので、事が起きても判断が出来ませんでした。今回の講習を生かし仕事でも迅速な判断が出来るようになったと思います。今回に限らずこのような講習に参加していきたいと思います。

〇2日間の講習で救急員の資格をとれただけの技術が身についたかはわかりませんが、仲間同士で三角巾の包帯の巻方などの練習はやりやすくてすごく覚えやすかったと思いました。

〇2日間ハードでしたが、みなさんと楽しく関わりながら取り組むことが出来おかげで学んだこともしっかり身に入っていくととてもよかったです。時間があればそれはそれでよいと思いますが、だらだらとやるより要点をしっかり絞ってやりテキパキと終わらせる方が社会人で時間の限られている我々には有難いと思います。また、キャンプシーズンののはじまる前でよかったです。

〇夏の活動本番に向けて正しい手当の仕方、骨折の対応等しっかり知識と技術を養うことが出来ました。ボリュームが多く頭に入れることが大変でしたがとても充実した2日間でした。体験活動を行っている方々はおさらいも含めて毎年みなさんで参加したい。してほしいと思いました。

〇子ども向けの体験活動の仕事をしているので今回の救急法の講習内容はとても参考になりました。一度講習を受けても忘れてしまうこともあるので定期的開催してほしいと思いました。また、救急法やリスクマネジメントの勉強会などで体験活動（キャンプ）に関わる方とネットワークを持ちたいと思いました。ぜひその機会を作ってほしい。

〇救急法基礎講習の経験は何度かあるのですが、更新や救急法救急員養成講習まではなかなか受講することが出来なかったのがハードでしたが学びの多い2日間でした。基礎講習の後に時間をあけないで救急員養成講習だったので一連の流れがつかみやすく基礎講習だけではなく救急員養成講習の大切さと必要性がすごくわかりよかったです。

### あそびのバイキング

実施日：2015年7月11日（土） 会場：札幌エルプラザ1階情報センター

あそびのバイキングは北海道キャンプ協会を広く知ってもらうための啓発活動として、昨年度から実施しています。昨年度までの貸室を利用しての実施から、自由来場者が見込める会場での実施を行いました。

当日は、様々なキャンプグッズを会場にレイアウトし、北海道キャンプ協会の紹介ブースや会員の所属する団体から展示を募り、活動写真等を展示しました。

また、メインの体験コーナーではBUC参加経験のある学生や社会人を中心に、自然素材を用いたコマ作りやキーホルダー作りを指導していただきました。

子どもたちには工作体験コーナーが人気で、指導スタッフの丁寧なサポートにより、お気に入りコマを完成させていました。参加者の提案により、コマ大会が始まるなど、子どもたちのペースに寄り添った楽しい時間を過ごすことができていました。

保護者の方や子どもの団体職員の方は展示ブースを熱心に見学しており、キャンプ協会への質問や体験活動への要望など、貴重なお話をいただくことができました。



### 参加者の声

〇展示ブースを見て、子どもが小学生になったらぜひ参加させたいと思いました。

〇中学生の1泊2日の宿泊体験の案内が少ないように思います。もっと中学生の活動を市内で増やしてほしいです。

〇普段、子どもに工作をさせる機会が少ないので、こんなに夢中になって上手にコマを作れるとは思いませんでした。ありがとうございます。

〇初めて会う大人（指導スタッフ）と子どもが触れ合うことができ、普段できない新鮮な体験をさせることができました。